

□プログラム

私は、富山県富山市にある「総曲輪商店街」の復興計画に取り組んだ。この商店街は127年の歴史を持つ商店街であり、富山の中心部に位置する商店街である。しかし、近頃ではシャッターを下ろすお店も目立つように。ここで私は、商店街を復興するにおいて2つのエリアの建築に着眼した。1つは、百貨店、もう1つは飲食店とマンションが一体となった建物である。この2つは商店街を歩く人々にとって巨大すぎるボリュームであった。



中田旭香
建築設計計画 | 研究室



富山県大野町	
1F	3003.00㎡
2F	5643.14㎡
3F	4037.63㎡
4F	5900.09㎡
5F	5551.85㎡
6F	5911.19㎡
構造	SRC造

SOGAWA BASE 建物	
富山県富山県中野町3丁目	
敷地面積	1,797㎡
建ぺい率	34%
容積率	14%
1F	1,320.98㎡
2F	800.95㎡
3F	705.81㎡
4F	280.93㎡
構造	RC造

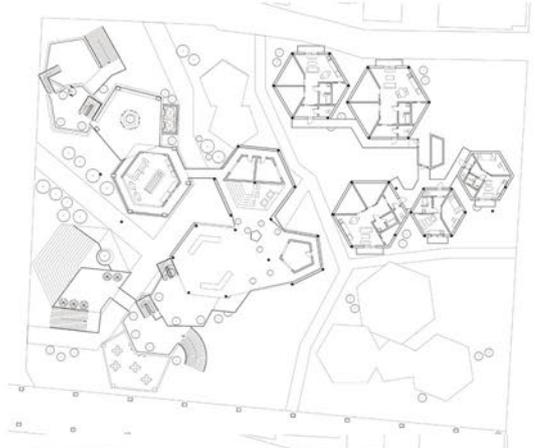
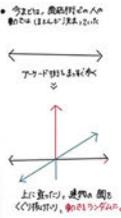


エリア1 大和 富山店
エリア2 SOGAWA BASE

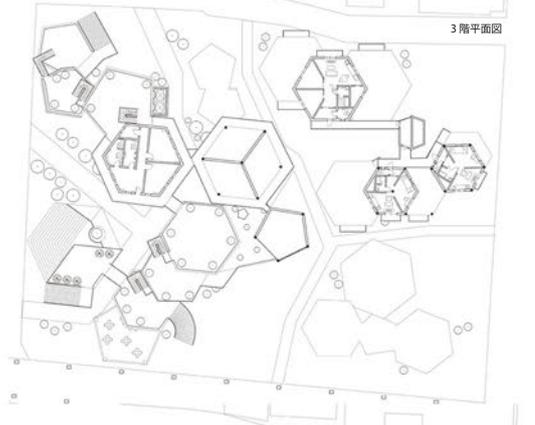
開発された点
・商店街のアーケード通りに対して、大きなボリューム
・壁によって、内側の空間を区別してしまっている。
→周辺を歩る人達に対して、商店街が閉じられている。



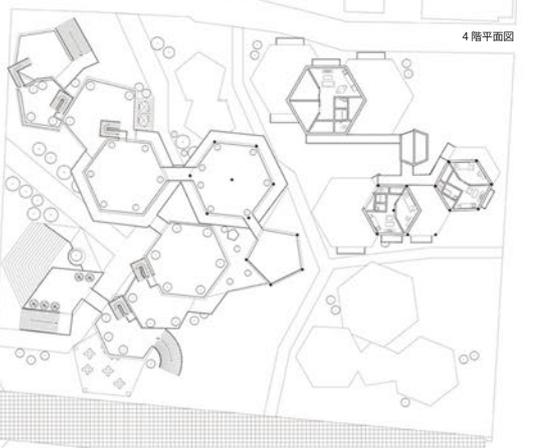
この問題に対して、
エリア1 シンバージョン
エリア2 既存
で解決案を考える。



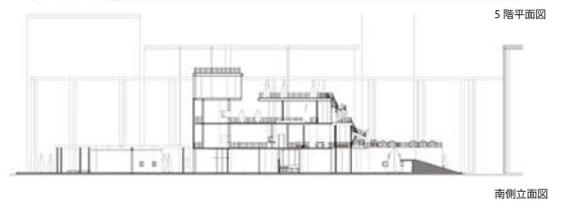
3階平面図



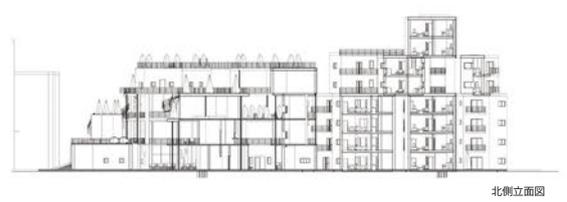
4階平面図



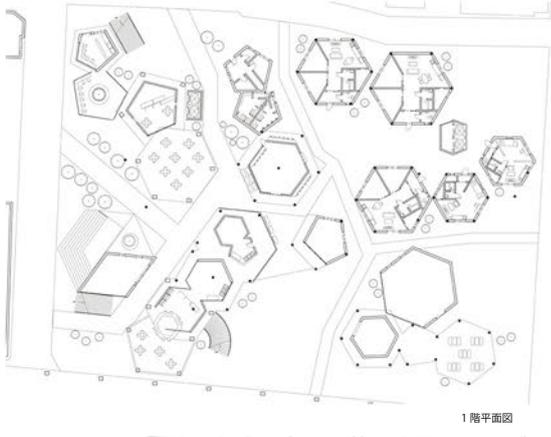
5階平面図



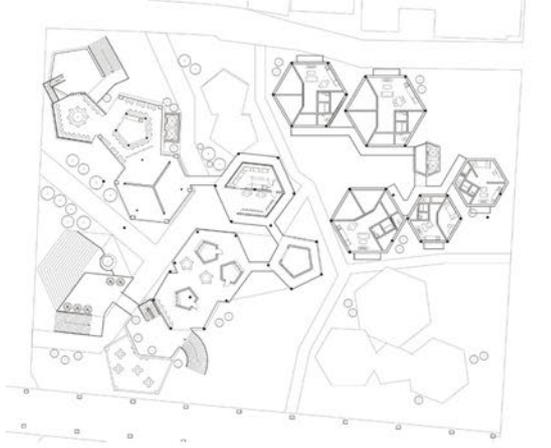
南側立面図



北側立面図



1階平面図



2階平面図



□コンセプト

コンセプトは、リノベーションのエリアは「省く」、新築のエリアで「積む」である。商店街を歩く人にとって、巨大すぎるボリュームであるとしても、富山の中心街を構成するにおいては、ただ小さければ良いわけではないと考えた。そこで、リノベーションの計画ではほぼ全面を覆う壁を大幅に省き、建物自体を斜めに切断した。新築の計画では歩く人には小さいボリュームを、積み重ねることで遠くからは大きなボリュームに見えるようにした。

□デザイン

1つ目の百貨店は、レトロな外壁は程よく残しつつ、ガラス張りの面を増やすことで周囲との繋がりを持たせた。さらに、建物を斜めに切断し、2、4階部分の床は残し外の空間にすることで、隣の全天候型施設との繋がりも深まる。2つ目のエリアは、小さなボリュームの建物を積み重ねることで、側を歩く人々に対しては小さなボリュームを、対して積み重ねることで遠くからは大きく見え、商店街のシンボルになるような建物を考えた。

